

第37回日本ロボット学会学術講演会 ランチョンセミナー

和文誌 実証実験分野の特徴



2019年9月6日(金)

一般社団法人 日本ロボット学会
査読副委員長 栗栖正充

実証実験分野の考え

- ❖ ロボット技術を実社会に導入するためには、実証実験が必要不可欠。
 - ➔ 実証実験により得られた **Lessons Learned** のロボティクスに対する貢献は大きい。

Lessons learned

学んだ教訓：将来のプロジェクトに積極的に考慮すべく、以前のプロジェクトから抜き出した経験 (Wikipediaより)

➔ 成功経験、失敗経験から学んだことをしっかり記述し、(自分ならびに他研究者の) 次に活かす。

コントロールされた研究室での検証実験とは異なる！

実証実験分野の論文で求められること

- ❖ 実際の運用環境（現場）での実験は行うだけでも価値はあるが. . .
 - 何が問題なの？ なぜ実験が必要なの？（背景）
 - 何が知りたいの？（目的）
 - どんな設定（シナリオ）？（条件）
 - 実験室とは何が違うの？（環境）
 - どんな技術を使って？（方法） ← 技術の新規性は問わない
 - 現場で実験することによって何がわかったの？（結果）
十分なデータに裏付けられた知見, *Lessons Learned*

が過不足なく記述されていなければ読者に有益な情報にはならない。

査読副委員長の思い

現場での検証実験，運用試験はだれもが実施できるわけではありません．

- 研究室での実験では起こらなかった，
- 現場で動かさなければわからなかった（予想すらしていなかった），
- このような事例はこうすれば解決できる，
- 現場で起こるこんな現象を克服するためには設計時にこんな配慮が必要，

等を読者に伝えることで，ロボット技術の実用化を加速させたい，と考えています．